

2008年9月2日
東日本旅客鉄道株式会社

「社会環境報告書2008」の発行

このたび、JR東日本グループの環境などへの取り組みをまとめた「社会環境報告書2008」を発行いたします。

持続可能な社会へ向けたJR東日本グループの活動を、安全、環境、社会の3つの側面から幅広くご紹介いたします。

1. 社会環境報告書の発行

JR東日本グループの持続可能な社会へ向けた取り組みについて、安全（鉄道の安全性向上に向けた取り組み、体制など）、環境（地球温暖化防止、資源循環など）や社会（サービス、地域貢献、社員の働きがいなど）について幅広くご紹介する「社会環境報告書2008」を発行いたします。本報告書を通じて、多くの方に当グループの取り組みをご理解いただくとともに、ご意見をいただけるきっかけとして活用してまいります。

今回作成した社会環境報告書の主なポイントは次のとおりです。

本年は2008年3月31日に「グループ経営ビジョン2020 - 挑む - 」を発表したことから、同ビジョンを分かりやすく紹介するページを設けました。
(P6～P9)

JR東日本グループの社会的責任である「安全」「環境」「社会」のそれぞれにおける特に重要な取り組みについて「特集」として取り上げました。
(P10～P15)

【特集の内容】

（安全）：羽越本線列車事故を受けた具体的な対策、大雨などによる影響を少なくする目的で行なっている降雨防災対策、高架橋の耐震補強をはじめとした地震対策といった当社における安全への取り組みを掲載しました。
(P10～P11)

（環境）：JR東日本グループ各社においては、各社の事業特性に応じたさまざまな環境の取り組みを行っていますが、特に4つの会社についてクローズアップし掲載しました。
また今年度より、グループ会社全社において環境に関する具体的な数値目標を設定することとしたため、主な会社の数値目標を掲載しました。なお、すべてのグループ会社の具体的な数値目標については、当社ホームページにて掲載しています。
(P12～P13)

（社会）：駅や車両をもっと快適にするため、JR東日本が設立20周年を機に進めている駅や車両の設備改良等についての具体的な内容を掲載しました。
(P14)

(社会) : JR東日本設立20周年記念事業のメインプロジェクトとして2007年10月14日に誕生した「鉄道博物館」の概要について掲載しました。(P15)

社会環境報告書をより読みやすいものとするため、3段組みを2段組みにするなどのレイアウト変更を行いました。また環境活動における定例的な数値等の一部の情報については、ホームページのみの掲載とし、本年度は昨年度の60ページに比べ12ページ減少し48ページとしました。

2. 2007年度の主な環境保全活動について(P34~P35)

地球温暖化防止のための取り組みである「鉄道事業のCO2総排出量」については、2006年度とほぼ同水準である1990年度比23%削減(212万t-CO2)となりました。これは2006年度に比べ河川水量が少なく、自営水力発電所の発電量が少なかったため、自営火力発電所の稼働率を高くしたものの、電力会社から購入している電力のCO2排出係数が改善されたことによります。 【2008年度達成目標：22%削減(1990年度比)】

減速時の運動エネルギーを電気エネルギーに換える回生ブレーキや効率的なモーター制御を行うVVVFインバータを搭載した「省エネルギー車両の導入率」については、2006年度より2ポイント上昇し、85%となりました。 【2008年度達成目標：82%】

「駅や列車で出されるゴミのリサイクル率」は、2006年度より14ポイント増加の64%となりました。 【2008年度達成目標：45%】

グループ全体の目標である「一般廃棄物のリサイクル率」は2006年度より5ポイント増加の48%となりました。 【2008年度達成目標：43%】

詳しくは、「社会環境報告書2008」をご覧ください。なお、「社会環境報告書2008」は当社ホームページ(<http://www.jreast.co.jp/eco/>)でもご覧いただくことができます。